

## 1. はじめに

本報告書は、広島県腫瘍登録事業の第45巻にあたる報告書であり、平成29年（2017年）に腫瘍として診断され収集された症例・標本データの集計結果を取りまとめたものです。本事業は、令和3年（2021年）3月31日付をもって事業を中止していますが、事業中止時点において、平成29年（2017年）から令和3年（2021年）3月の事業終了までに収集された症例・標本データの整理・集計および報告書の発刊が未完了の状態にありました。

腫瘍登録事業は全国でも広島県と長崎県においてのみ実施されてきましたが、広島県では、昭和48年（1973年）4月1日に開始されました。広島県のがん対策の向上と推進を目的に、放射線影響研究所（当時の ABCC）および広島大学との協定締結を契機として発足したものであり、県内における良性・悪性腫瘍の登録結果を長期にわたり蓄積してきた本県のがん研究の基礎資料として、極めて貴重な役割を果たしてきました。しかしながら、平成28年（2016年）から開始された「全国がん登録」との棲み分けや、標本や患者情報の収集に関する個人情報保護法との関係について検討・協議を重ねた結果、事業の継続は困難との判断に至り、事業中止が決定されたものです。

これまで44巻にわたって、関係の諸先生方、協力医療機関、ならびに全国のがん対策行政や医師会等に事業を報告してきた経緯を踏まえるとともに、毎事業年度、広島県腫瘍登録報告書を作成し、公表することが規定されていることに基づき、未完であった後続報告書の刊行に向け、報告書作成を再開いたしました。

従来、報告書作成は腫瘍登録実務委員会において協議してまいりましたが、同委員会の任期満了および実務の終了により、再招集が困難であることから、事業中止時に委員会に所属されていた先生方、ならびに中止後も継続してデータ整理・集計に携わられた放射線影響研究所の先生方にご参画いただき、新たに腫瘍登録報告書検討ワーキンググループを設置し、報告書作成に向けた検討や作業を進めてまいりました。本報告書の執筆については、引き続き放射線影響研究所の杉山裕美先生にご担当いただいております。

令和7年（2025年）に一通りの集計が完了し、報告書作成が再開できましたことは、貴重なご助言を賜るとともに収集済みデータの整理・集計にご尽力いただきました、事業中止当時広島県医師会腫瘍登録室室長であった梶原博毅先生、腫瘍登録実務委員会委員長であった広島大学大学院医系科学研究科病理学教授の武島幸男先生、広島県厚生農業協同組合連合会尾道総合病院の米原修治先生をはじめとする本県の病理医の先生方、放射線影響研究所の先生方、そして各医療機関のご理解とご協力の賜物であり、本事業の推進にご尽力いただいた諸先生方に、あらためて深く感謝申し上げます。

本報告書が、本事業の成果の共有を図るとともに、今後の調査・研究の一層の推進に資することを期待しています。

令和8年6月

一般社団法人広島県医師会会長  
松 村 誠